

一般社団法人日本医真菌学会 2020 年度第 4 回理事会議事録

日時：2020 年 10 月 8 日 14：30～16：00

会場：京王プラザホテル（東京）4F 花 D

現地出席：

澁谷和俊（理事長）、宮崎義継、杉田隆、坪井良治、福田知雄、槇村浩一 以上理事 6 名
若山 恵（幹事）

Web 出席：

泉川公一、大野尚仁、亀井克彦、神田善伸、望月 隆 以上理事 4 名
竹末芳生、三鴨廣繁 以上監事 2 名

議題：

（報告事項）

1. 2020 年度事業報告（宮崎総務理事）

事業報告として、会議の開催（理事会 3 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 63 回学術集会の開催（亀井克彦会長会期：2019 年 10 月 10 日（土）、10 月 11 日（日）会場：オークラ千葉ホテル）について報告があった。学術集会 2 日目は豪雨災害のため現地開催を中止とし、誌上開催とした。会誌 60 巻 4 巻～61 巻 3 号の刊行と各種委員会活動を行ったことが述べられた。また、代議員選挙、理事選挙を行ったことが報告された。

2. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2020 年 8 月 31 日現在の会員数は、個人会員 914 名（国 912、海外 2）、顧問会員 1 名、奨励会員 29 名、名誉会員 24 名（国内 22、海外 2）、賛助会員 18 社（44 口）、団体購読 21 名であることが報告された。続いて 2020 年度の物故会員について報告があった。会員は微減の傾向が続いている。

3. 各種委員会報告

1) 編集委員会報告（宮崎理事）

i. 2020 年度の論文投稿状況について報告があった。

ii. 優秀論文賞に栃木直文先生（東邦大学）を選出した。代議員総会で報告する予定である。

iii. 新規編集委員および薬学系セクションエディタとして、村山琮明先生（日本大学）をお願いし、就任いただいた。

iv. インパクトファクターは未収載となったが、「Academic Accelerator」という web サイトにおいて、MMJ 誌を検索するとインパクトファクターが表示される。（インパクトファクター 2019-20：0.770、7/17 編集事務局確認）。しかしながら、インパクトファクターを管理しているクラリベイト・アナリティクス社が関与しているサイトではないため、判断・評価はできない。

2) 用語委員会報告（大野理事）

2020年度の活動報告として以下説明があった。

- i. 国際疾病分類第11回改訂版（ICD-11）にかかる和訳に関する意見照会対応
- ii. 代表的な病原真菌のカタカナ表記の提案（医学用語辞典へ投稿）
- iii. 日本医学会からの遺伝学用語改訂（dominant, recessive, 優性, 劣性）に関するアンケートへ回答
- iv. 用語解説の掲載（シリーズ用語解説(No. 20-28)をMMJ誌に掲載した）

3) 将来計画委員会報告（神田理事）

新規入会会員獲得のための継続審議事項として以下説明があった。

- i. 後期研修医等の若手医師を対象とした教育的レクチャー
- ii. 他学会との共催セミナーや企業との共催セミナー
- iii. 多施設共同研究のための学会ワーキンググループ設置
- iv. ホームページの改善（若者向けのデザイン、研究費助成金リンク等）
- vi. コ・メディカルの年会費、学会参加費の軽減
- vii. 認定制度等の導入
- viii. 血液学会総会との日程調整（第62～64回の総会・学術集会が日本血液学会総会と重なった。今後の会長に検討を依頼した。）

4) ガイドライン検討委員会報告（泉川理事）

- i. 侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン作成委員会（竹末監事）

進捗状況について報告があった。まだ未入稿のものがあるが、来年3月発刊にむけて作業を進めている。名称には2021年改定版と明記することとした。

- ii. 希少深在性真菌症の診断・治療指針作成委員会（澁谷理事長）
報告事項なし。

5) 支部・関連学会委員会報告（泉川理事）

これまでの活動内容と今後の開催予定について報告があった。COVID-19の影響で開催中止や、開催予定が立てられない地域がある。九州中四国支部については2021年の開催予定がなかったが、今後開催に向けて検討を始めた。

6) 疫学調査委員会報告（福田理事）

疫学調査のスケジュールについて報告があった。現在19施設から協力承諾を得ている。続いて主幹施設である埼玉医科大学の倫理委員会で本調査の承認を得たことが報告された。

協力施設が倫理委員会の承認を得るかはその施設に一任している。北海道と四国に協力施設がなかったが、四国は香川県から 1 施設協力を得られることとなった。北海道は依頼を出しているが、まだ決定はしていない。北海道の協力施設は継続して探していく。

7) 教育委員会報告（杉田理事）

他学会との共催シンポジウムと講習会について報告があった。

i. 第 94 回日本細菌学会総会（2021 年 3 月 23-25 日）

タイトル「真菌と生存空間を共有する微生物から見た真菌学」を検討中。

ii. 第 32 回日本臨床微生物学会総会・学術総会（2021 年 1 月 30 日（土））

タイトル「侵襲性カンジダ症における薬剤耐性のインパクト」を企画。

iii. 第 8 回皮膚真菌症指導者講習会（8 月 29 日）は開催中止とした。

8) 広報委員会報告（槇村理事）

2020 年度の Web サイトレポートについて説明があった。ホームページ改修は継続して予算をかけずに改修を進めている旨説明があった。

9) 専門医・認定師委員会報告（望月理事）

2020 年度専門医認定状況について報告があった。

10) 規約検討委員会報告（澁谷理事長）

継続して規約の整理を進めている。

11) 倫理委員会報告（亀井理事）

報告事項なし。

12) 利益相反委員会報告（亀井理事）

医学会の COI ガイドラインが改定された。学会発表時は自身の COI を読み上げることになっているが、実行されているかどうかは COVID-19 の混乱もあり、実態は把握できていない。また、倫理委員会、利益相反委員会の委員長、委員は重複しない方が望ましいという内容があったので次期理事会で検討することとした。

13) 顕彰制度検討委員会（槇村理事）

学会賞と奨励賞の現状と、新たな顕彰設置の検討に至った経緯について説明があった。委員会での検討案が提示され説明があった。次期理事会で審議し、来年の代議員総会で承認を得て運用開始出来るように進めることとした。

4. 第 64 回総会報告（澁谷会長）

開催にあたり挨拶が述べられた。

5. 次期（第 65 回）総会準備状況報告（宮崎次期会長）

開催予定（日時と会場）はこれまでの報告と変更はない。

6. 次々期（第 66 回）総会の件（澁谷理事長）

COVID-19 の影響で ISHAM が開催延期となることなどが要因で、APSMM が 2022 年から 2024 年に変更となった。本会総会・学術集会と合同開催とするため、杉田理事にはこれに合わせて会長を務めていただくこととした。

7. 関連国際学会・会議に関する報告（坪井理事）

ISHAM 2021（ニューデリー）が来年 3 月に延期開催となったが、さらに延期の可能性がある。

8. ICD 制度協議会報告（望月理事）

ICD 制度協議会の総会（メール審議）での審議事項について報告があった。

（審議事項）

9. 2020 年度事業計画案について（宮崎理事）

事業計画として、会議の開催（理事会 4 回、代議員総会 1 回、会員総会 1 回）、第 64 回学術集会の開催（澁谷和俊会長 会期：2020 年 10 月 8 日（金）、10 月 9 日（土）会場：京王プラザホテル）、会誌 61 巻 4 巻～62 巻 3 号の刊行を予定している。また、侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインの発刊を行う。異論はなく承認された。

10. 2020 年度決算報告および 2021 年度予算案について

1) 2020 年度決算報告

i. 2020 年度決算報告（望月財務理事）

収支差額 3,255,437 円の黒字決算となった。収入は会費収入と学術集会収入が減額となったが、雑収入（転載許可料）で補った結果となった。支出は COVID-19 の影響で学会活動が停滞したことが要因で大幅減となった。第 63 回総会は 2 日目が豪雨災害で現地開催を中止としたが、その影響を最小限に留めたことも黒字決算の要因となった。

ii. 2020 年度会計監査報告（三嶋監事）

竹末監事と共に監査を行った旨報告があった。以上を審議し、2020 年度決算は承認された。

3) 2021 年度予算案について（望月理事）

大方例年通りの予算だが、新カンジダ症ガイドラインを発刊するため、冊子の販売収入と転載許諾料が見込まれる。これに関連する収入科目を例年より増額した。また、新カンジダガイドラインの印刷経費を支出に計上した。Web 会議が定着してきたため、会議に係る経費を大幅に減額し、収支差額 0 円の予算とした。以上を審議し、2021 年度予算は承認された。

1 1. 次期理事・監事選任の件（澁谷理事長）

この後の代議員総会で選任を行う予定である。

1 2. その他

1) 抗菌薬市場を取り戻すプル型インセンティブの構築に関する政府提言書（澁谷理事長）

日本医療政策機構の提言書が提示された。本会が関連する部分について説明があった。

1 3. 報告事項の中での審議事項

1) 編集委員会報告（宮崎理事）

v. 和文論文の英文化による再掲載（二次出版）について

インパクトファクター取得のため、より多くの英文論文を掲載する必要がある。そこで、真菌誌に掲載された和文論文を対象に、編集委員会で審議・選出し英文に翻訳して MMJ に掲載することを決定した。実施にあたっての指針、実施要項をガイドラインとして投稿規定に掲載する。編集委員会案が提示され、承認された。

2) 教育委員会報告

榎村理事より獣医師対象の講習会開催について提案があった。日本獣医学会、日本獣医皮膚科学会と共催などを検討していく。方向性は了承され、今後具体案を検討していくこととした。

3) 次期（第 65 回）総会準備状況報告（宮崎次期会長）

第 65 回総会と真菌症フォーラム 2021（近畿大学 吉田耕一郎会長）との共同開催について提案があり、承認された。

4) その他

幹事増員について澁谷理事長より提案があった。これまで医学会（医学会連合）、内保連、ICD 制度協議会など外部団体との連絡担当を、理事以外の会員にお願いしているケースがあった。今後は連携をさらに密にすべく、各担当者には理事会に出席していただきたい。定款では幹事は若干名選任できると規定されているため、これまで理事長補佐として 1 名幹

事を任命することが慣例となっていたが、外部団体等との連絡役を担っていただく方々も幹事として任命したい。一同異議なく了承した。

以上

2020年10月8日

議事録署名人

理事長 澁谷和俊

監事 竹末芳生

監事 三鴨廣繁